

平成30年度 学校評価に関わるアンケート集計結果

平成31年1月21日
宮城県中新田高等学校

1 アンケート調査期日と回収率

対象者	実施日	回収率
生徒	12月5日(金) 15:40～	96% (324/336人中)
保護者	11月22日(木)～12月5日(金)	85% (286/336人中)
教職員	11月22日(木)～12月5日(金)	100% (33/33人中)

2 結果詳細

<資料1>平成30年度 学校評価アンケートの実現度グラフ (生徒・保護者・教職員)

<資料2>平成30年度「重要度」「実現度」「ニーズ度」一覧 (生徒・保護者・教職員)

3 共通項目 結果一覧 (実現度)

(数字は肯定的評価の値 単位 %)

	項目	生徒		保護者		教職員	
		H29	H30	H29	H30	H29	H30
1	進路に応じた教育課程編成	83	84	86	85	77	80
2	意欲を引き出す授業	66	70	72	72	81	73
3	家庭学習の定着	33	35	40	40	29	36
4	充実した朝読書の推進	82	79	68	64	84	76
5	生活指導の方針明確	72	76	78	72	84	76
6	基本的生活習慣の指導	78	77	83	76	87	79
7	進路目標の明確化	78	80	76	73	90	67
8	進路情報の提供	80	80	74	72	87	79
9	進路ノートを活用	63	64	67	65	52	48
10	教育相談体制	77	77	69	63	90	88
11	部活動が活発	78	77	78	73	68	70
12	部活動の休養日設定	72	75	78	77	68	72
13	生徒会活動が活発	75	73	79	78	71	70
14	有意義な学校行事	65	68	79	78	100	76
15	特色ある学校づくり	76	77	78	73	77	79
16	災害時の避難・連絡	86	84	85	73	90	91
17	学校の情報提供	77	79	74	75	94	97
18	PTA・学校行事の連絡	71	81	61	63	55	36
19	校舎等の施設設備	64	71	73	67	81	82
20	清掃等学習しやすい環境	71	78	80	77	88	76
21	いじめの早期発見	59	69	69	67	94	94
22	学校生活の充実度	68	72	82	79		
	平均	71.5	73.9	74.0	71.0	78.3	73.6

4 共通項目概況

今年度の学校評価に関するアンケートは、昨年度と同じ項目で実施した。具体的項目での昨年度と今年度の経年比較を実施した。

(1) 生徒アンケート

肯定的評価の平均は73.8%（前年比+2.3ポイント）と全体的に評価が高くなった。その中で肯定的評価が70%以上の項目は、22項目中18項目（前年比+4）であった。

中でも「進路に応じた教育課程の編成」、「進路目標の明確化」、「進路情報の提供」、「災害時の避難・連絡」、「PTA・学校行事の連絡」の5項目で肯定的評価80%を超えている。また、肯定的評価が65%未満は1項目（前年比-3）であり、そのうち60%未満は、「家庭学習の定着」であるが、前年度より2ポイント高まった。（H23は16, H24は19, H25は27, H27は32, H28は19, H29は33）

なお、前年度と比べて大きく変動した項目は、「PTA・学校行事の連絡」（+10）、「いじめの早期発見」（+10）であった。

(2) 保護者アンケート

肯定的評価の平均は71.0%（前年比-3.0ポイント）と大きく数値が下がった。その中で肯定的評価が70%以上の項目は15項目（前年比-1）となった。80%を超えた項目は「進路に応じた教育課程の編成」の1項目であった。また、肯定的評価が65%未満は4項目であり、特に「家庭学習の定着」の評価が40%（前年比±0）と生徒アンケートと同様に低い評価となっている。「災害時の避難・連絡」の評価は前年比10ポイント下がり、生徒との乖離がある。

(3) 教職員アンケート

肯定的評価の平均は74.6%（前年比-3.7ポイント）であった。肯定的評価が70%以上の項目は、21項目中17項目（前年比+1）であった。その中でも「教育相談体制」、「災害時の避難・連絡」、「学校の情報提供」、「いじめの早期発見」の4項目が85%を超えた。

また、肯定的評価が70%未満の項目は、4項目（前年比-1）であり、その中でも60%未満は「家庭学習の定着」、「進路ノートの活用」、「PTA・学校行事の連絡」である。評価項目中「PTA・学校行事の連絡」が36%（前年比-19）、「進路目標の明確化」が67%（前年比-23）と大きく評価が下がった。

5 ニーズ度算出からのまとめ

(1) アンケートの実施について

今年度のアンケートも、昨年同様にそれぞれの項目に対して実現度だけでなく重要度も回答してもらった。重要度と実現度に関してはアンケート結果に対して次のような点数化を行い、各項目の「重要度」「実現度」「ニーズ度」を算出した。

重要度	重要である	やや重要である	あまり重要でない	重要でない
点数	7	5	3	1

点数の和 ÷ 有効回答数 = 重要度

実現度	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
点数	7	5	3	1

点数の和 ÷ 有効回答数 = 実現度 重要度 × (8 - 実現度) = ニーズ度

「ニーズ度」は、重要度が高くて実現度が低いと高くなる。「ニーズ度」が高い項目は、学校の課題と見なすことが出来る。

(2) 「生徒」「保護者」「教職員」アンケートの三者比較概要 ※（ ）内は29年度の値

	重要度平均値	実現度平均値	ニーズ度平均値
生徒	5.48 (5.67)	4.66 (4.60)	18.29 (19.20)
保護者	5.64 (5.81)	4.50 (4.65)	19.70 (19.46)
教職員	5.96 (5.97)	5.35 (5.35)	18.24 (19.03)

上記の表から、今年度のアンケート結果を見ると、生徒と保護者・教職員による重要度・実現度・ニーズ度の平均値がほぼ同程度であるが、それぞれ重要度・実現度の平均値が若干増加し、ニーズ度が若干減少した。今回のアンケート結果から、三者のニーズ度の数値の高い項目から課題の割り出しを試みた。

(3) 「ニーズ度」から見た注意すべき項目(上位7項目)

		ニーズ度			
<生徒>	質問項目	重要度	実現度	30年度	29年度
3	私は、毎日、予習・復習等の家庭学習に取り組んでいる。	4.99	3.28	23.57	25.45
14	有意義な学校行事がある。	5.87	4.40	21.13	21.30
21	学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	5.79	4.39	20.90	22.41
19	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	5.79	4.49	20.32	20.68
2	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	5.53	4.45	19.63	22.08
9	「進路ノート」を活用しLHRや総合の時間を使って効果的な進路指導が行われている。	5.11	4.25	19.19	19.55
22	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	5.53	4.59	18.87	20.68
全平均		5.67	4.60	20.51	19.20

		ニーズ度			
<保護者>	質問項目	重要度	実現度	30年度	29年度
3	お子さんは、毎日、家庭学習に取り組んでいる。	5.55	3.42	25.43	25.09
21	学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	5.98	4.24	22.50	22.19
19	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整理されている。	5.64	4.16	21.67	18.29
16	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	6.22	4.62	21.00	17.94
10	教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています。	5.76	4.35	21.00	20.33
2	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	5.78	4.44	20.62	21.83
9	「進路ノート」を活用しLHRや総合の時間を使って効果的な進路指導が行われている。	5.45	4.22	20.56	20.49
全平均		5.77	4.21	21.83	20.88

		ニーズ度			
<教職員>	質問項目	重要度	実現度	30年度	29年度
3	宿題指導の徹底などにより、家庭学習は定着している。	5.61	3.61	24.63	23.36
7	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	6.33	4.55	21.88	19.68
18	PTA活動や学校行事などの連絡事項を、保護者へいつも伝えている。	5.21	3.88	21.48	19.11
9	「進路ノート」を活用しLHRや総合の時間を使って効果的な進路指導が行われている。	5.42	4.09	21.20	23.94
2	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	6.52	4.76	21.12	21.33
5	学校の生活指導の方針が明確に示されている。	6.06	4.64	20.39	20.09
20	校舎内外をきれいにし、設備を大事に使っている。	6.06	4.67	20.20	18.19
全平均		5.89	4.31	21.56	20.81

・「家庭学習の定着」は、4年連続して三者ともニーズ度が高い項目であった。学習することの大切さは感じているものの、実際の家庭学習状況はなかなか改善されていない。保護者・教職員のニーズ度が前年より高くなっていることに対して、生徒のニーズ度は下がっている。生徒自身は、わずかではあるが家庭学習の定着を意識し始めていることがうかがえる。学習意欲を喚起する具体的な取り組みを保護者の協力を得ながら進めていかなければならない。

・「学ぶ意欲を引き出す授業」も、三者とも高い値となっている。学ぶ意欲を引き出し、基礎学力の定着、向上につながるわかりやすい授業を目標に各教員がそれぞれ工夫している。職員間でも学力の向上をうながす具体的な方策を打ち出すために「学力向上プロジェクトチーム」を立ち上げ、話し合いを重ねている。今後、実態に即した取組を展開しながら、生徒の意欲を高める指導を実践していきたい。

・「進路ノートの活用」は、計画的な学習や生活の仕方を身に付けさせる目的で活用を進めて

いる。進路ノートを日常的に活用している生徒は、提出物の忘れを防ぎ、家庭学習を含めた計画的な生活が身に付く傾向にあり、効果を上げている。具体的な活用の方法や記述について声かけ等の指導を進めていく必要がある。

・「いじめの早期発見」は、安心した学校生活に欠かせない必要性の高い項目である。今年度も、いじめに関するアンケートを毎月実施し、その内容をもとにいじめが解決した事例もある。また、職員も日々の教育活動の中で生徒を注意深く観察し、いじめの早期発見・防止に取り組んでいる。実現度は少しずつ向上しているが、生徒・保護者のニーズ度が高いことを教職員は十分に意識し、いじめ防止と早期発見を心がけながら普段の教育活動に取り組まなければならない。

・「校舎やグラウンドなどの施設や設備」については、生徒・保護者のニーズ度が高い。自由記述には、エアコンの設置や駐車場の街灯設置などの要望もいただいた。県と相談しながら実現可能なものから取り組んでいく必要がある。

6 考察

今年度の学校評価に関わるアンケート結果について共通項目結果一覧及びニーズ度算出結果より、本校が問題意識を持って取り組むべき課題は、次の点に集約されると考える。

- 1) 生徒の「やる気」を喚起する工夫
- 2) 家庭学習の習慣化をうながし、学力の向上と学ぶ意欲を引き出す授業の工夫
- 3) 生徒が相談しやすい環境づくりといじめ防止に向けた積極的な情報収集
- 4) 「進路ノート」の活用と効果的な進路指導方策及び進路情報等内容・伝達法の工夫
- 5) 校地内の環境整備と管理を徹底し、安全・安心に生活できる学校づくり

7 自由述欄より

今年度の自由記述では、「学校行事の内容について」、「進路指導の在り方について」、「部活動の在り方や見直しについて」、「女子の制服デザインについて」、「保護者送迎の旧テニスコートの改善について」、「教師の指導の仕方について」など大変貴重なご意見をいただいた。

「エアコン設置について」は県から計画的に設置するとの報告を受けている。その他のご意見についても校内で検討させていただき、改善に努めたいと思っている。今後も学校経営上のヒントとなる意見等大いにお願ひしたい。